

Toyota Municipal Museum of Art Press Release

豊田市美術館 プレスリリース

2021.9



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館



コレクション展：絶対現在 COLLECTION : ABSOLUTE PRESENT

2021.10.23. | 土 | — 2022.1.23 | 日 |

休館日： 月曜日（2022年1月10日は開館）、年末年始（2021年12月27日 - 2022年1月4日）

開館時間： 10:00-17:30（入場は17:00まで）

主催： 豊田市美術館

観覧料： 一般300円〔250円〕、高校・大学生200円〔150円〕、中学生以下無料

〔 〕内は20名以上の団体料金。

障がい者手帳をお持ちの方（介添者1名）、豊田市内在住又は在学の高校生及び豊田市内在住の75歳以上は無料（要証明）。

*その他、観覧料の減免対象者及び割引等についてはウェブサイトをご確認いただくか、豊田市美術館へお問い合わせください。

*感染症拡大防止のため会期、関連事業の内容、来館者の受入態勢等を変更する場合があります。当館ウェブサイトから最新情報をご確認ください。

開催趣旨

「ホー・ツーニエン 百鬼夜行(ひゃっきやこう)」展の開催にあわせ、「歴史に竿刺す時間をどう捉えるか」という視点から、河原温を中心とした時に関わるコレクション展を行います。

河原温(かわらおん)は、その日のうちに当日の日付を描く「デイト・ペインティング」のシリーズを制作しました。時間と空間の切り離せない関係を説明する言葉に、「飛ぶ矢は飛ばない」というパラドクスがあります。一瞬一瞬を捉えれば飛んでいる矢は止まって見えますが、その連続によって矢は飛んでいきます。「デイト・ペインティング」は、この止まった矢のように、目には見えない流れる時の一瞬を現前させ、尺度としての時間と体験としての時間、個人の時間と歴史的な時間、一の時間と多の時間へと、観者の意識を促します。豊田市美術館が所蔵している一か月分の「デイト・ペインティング」のシリーズは、1971年に制作されてから2021年でちょうど50年が経過しました。本展では、この機に一か月分の「デイト・ペインティング」を中心として、半世紀という時間の束に向き合う‘今ここ’を、コレクションを通して捉えることを試みます。

ウクライナ出身のボリス・ミハイロフは、冷戦時代に撮りためたフィルムを2枚重ねて現像し、世界が東西に分かれていた時代を郷愁とユーモアを込めて浮かび上がらせます。イギリス出身のライアン・ガンダーは、愛娘がシーツに潜ってオバケに扮している様子を、彼女が幽霊を信じている間だけ毎年彫刻にします。杉本博司(すぎもとひろし)は、太古の昔から人類が見つめてきた唯一変わらない風景として、静謐な海の水平線を写し取ります。下道基行(したみちもとゆき)は、戦中に国外に建てられた鳥居を探し、それらがかつて持っていた機能や象徴性を失っても、人々の生活や風景とともにある重層的な時間を捉えます。そして李禹煥(リウフアン)は、時を超えた関係性の力学を想起する、瞑想的な場を提示します。作家たちの作品は、太古の昔から近過去、そして現代にいたるまで、子どもの成長という捉えがたい一瞬から花の盛り、そして懐かしい個人の記憶などの様々な時間に向き合わせます。それら多層的な時間のなかで、今その作品を前にしている私たち自身に意識を向けてみましょう。

現代芸術家にも影響を与えた禅の思想家・鈴木大拙(すずきだいせつ)は、「絶対の現在」について、「過去はすべてここにあつまり、未来はすべてここから出ていく。ただし、‘ここ’、実のところ‘今ここ’は空(くう)そのもの―内実に置いて無限に豊かで、尽きぬ創造性を持つ‘空(くう)’である」と述べています。時や場について考えるのではなく直観することで、主体と客体、過去と未来を超えて創造的な‘永遠の現在’に至るというのです。

河原は、「デイト・ペインティング」の制作プロセスを、「精神労働」、「瞑想」と呼んでいました。時間に関わる作品を前にして静かに自己に向き合えば、瞑想にも似た自ら意識の働きに気づくでしょう。

出品予定点数 約25点

主な展示作家 ライアン・ガンダー、河原 温(かわら おん)、ジェームズ・リー・バイヤース、李 禹煥(り うーふあん)、ボリス・ミハイロフ、中川 幸夫(なかがわ ゆきお)、下道基行(したみち もとゆき)、杉本 博司(すぎもと ひろし)

展覧会のみどころ

- ・河原温は、毎日「日付絵画」を描いていたわけではありませんが、当館では一か月分毎日の「日付絵画」が揃っています。3か月分揃っているのは1組、1か月分揃っているものは3組のみであり、そのうちの1組すべてを展示する貴重な機会になります。
- ・同時開催している「ホー・ツーニエン 百鬼夜行」展は、妖怪の姿を借りて日本の歴史や精神史を浮き上がらせようとするものですが、コレクション展では歴史に対する現在の時間についての意識を促します。企画展とコレクション展を通して、歴史の中の今について考えてもらいます。
- ・個展を同時開催している作家ホー・ツーニエンは、あいちトリエンナーレ2019、2021年の山口情報芸術センターで、西田幾多郎(きたろう)のもとで学んだ哲学者たちを総称する京都学派について取り上げました。禅の瞑想体験から直観された思想は、時や場についての深い思索に導きます。本展では、西田の盟友であり、多大な影響を与えた、思想家であり宗教者であった鈴木大拙(だいせつ)の言葉をタイトルに用い、禅的な‘今ここ’について作品を通して捉えます。

関連事業 会期中オンラインにて、トークイベントを予定しています。
内容、日程等の詳細は美術館ウェブサイトにてお知らせします。

お問合せ 豊田市美術館 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1
ウェブサイト:<https://www.museum.toyota.aichi.jp> e-mail:bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

- 展覧会に関すること 学芸担当：能勢(のせ)、千葉 Tel 0565-34-3131
- 掲載依頼・取材等に関すること 庶務担当：吉兼(よしかね)、小川 Tel 0565-34-6748



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館

「コレクション展：絶対現在」 広報用画像について

画像等の資料をご希望の方は以下を記入のうえ、Faxかe-mailでお送りください。

送り先：豊田市美術館 庶務担当 吉兼(よしかね)、小川

Tel 0565-34-6748 Fax 0565-36-5103

e-mail:bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

お名前	様	ご所属
Tel		Fax
e-mail	必要な画像等の番号	
掲載紙／メディア名	発売、放送予定日	



1



2



3



4



5



6

1. 河原温 《MAY 13, 1971 Todayシリーズ (1966-2013) より》1971年 アクリル、カンヴァス
2. ボリス・ミハイロフ 《イエスタデイズ・サンドイッチ 5》 1965-1981年 写真
3. ライアン・ガンダー 《おかあさんに心配しないでとって(6)》 2013年 大理石樹脂
4. 杉本博司《Agean Sea, Pilion》1990年 写真 寄託作品
5. 下道基行 《torii》2006-2012年 写
6. 李禹煥《風と共に》1991年 油彩、岩絵具、カンヴァス

資料の使用には以下の点にご注意ください。

- ・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮いただき、クレジットを表示してください。
- ・ご紹介いただく場合は、情報確認のためお手数ですがゲラ刷り等をお送りください。

美術館使用欄 画像提供の依頼日 年 月 日 画像送付 校正 修正 配信・配本